

新火葬場基本計画検討委員会先進地視察及び会議 第2部会議 議事録

- 1 日 時 平成29年4月20日(木) 午後1時30分～午後4時00分
- 2 場 所 伊豆の国市役所大仁支所 第1会議室
- 3 出席者 委 員 寒竹 伸一 委員、武田 至 委員、八木 實 委員、長澤 登喜雄 委員、  
土屋 富夫 委員、幡本 均 委員、森西 廣志 委員、瀧本 順子 委員、  
中川 謙一 委員  
オブザーバー 小笠原 秀明、浅野 正観  
傍 聴 1名(うち報道関係者1名)  
事務局 天野課長、野田係長、小嶋副主幹、前田主査、神田専門官

4 内 容

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 議題
  - (1) 先進地視察以外の施設の紹介について
  - (2) 新火葬場基本計画検討委員会での検討内容について
  - (3) 新火葬場基本計画(案)の検討について
    - 1) 基本方針について
    - 2) 平面計画「ユニット化」について
    - 3) 諸室の計画について
4. その他
  - (1) 第2回新火葬場基本計画検討委員会について
5. 閉会

## 1. 開会

## 2. 委員長挨拶

## 3. 議題

### (1) 先進地視察以外の施設の紹介について

(委員長) 議事の進行についてご協力いただきたい。事務局説明をお願いする。

(事務局) 資料2について説明

(委員長) 前回意見のあったユニークな施設の紹介であったが、質問等あるか。

(委員) 今回の視察した施設も含めて、みなさん思いがあると思うが、実際みて、どのように思われたか、意見感想等をお伺いしたいがどうか。

(委員) 建築からいくと、規模と形が関係してくる。伊豆聖苑はコンパクト、みしま聖苑は大きめの施設。今日見たスウェーデンの火葬場は、建築を学ぶものならみんな知っている有名な火葬場。結局アプローチが大切。今日見たのはパッと出てきてしまう。スウェーデンのものは、アプローチがあつて、神聖な場所がでてくるという設えがしてある。難しいかもしれないが、できればアプローチから考えたほうがいいと思う。

(委員) みしま聖苑が出来た時代に関わったのだが、それ以前の火葬場というのは、非常に貧弱で、狭くて暗いイメージがあり、なるべく火葬場にお金をかけてもらい、豪華な施設にしたいという思いがあり、いろいろな部屋をくっつけた。見送りホール、収骨室、告別室をつけている事例がありますということで施設基準を作ったが、そのまま作ったものである。

結果、動線が告別室、見送りホール、待合室、収骨室という動線となったが、葬儀社の人以案内誘導で苦勞されている。動線が複雑になって迷子になる。

見送りホールは、炉前ホールの作業性の問題に対して、ガラス張りで区切って、せめて炉に入るところを見せましようという形で作られた。他の施設では、ほとんど炉前までいける。作業性に問題があるというのは、炉前ホールが狭いからである。また、見送りホールが狭いということにもなっている。最近の傾向としては、ユニット化ということもある

のだが、炉前ホールを分ける傾向にある。先ほどの多治見市もそうだった。1 炉 1 炉前ホールまたは 2 炉 1 炉前ホールということで、そうすると会葬者の移動が少なくなる。

先程火葬場に行くまでのアプローチ、シークエンスが重要だという話があったが、施設もどういう形で会葬者を受け入れるかということあまり考えていないものがある。

あとは、閉鎖した空間が多いなかで、オープンなものが出てきた。北信斎場のような形で、自然の景観を見せるという傾向に変わってきた。

なるべく動線は単純、外の景観を見せる、地域のもを活かしてつくるようになってきている。

(委員) 今日見させてもらった施設の外観は、極端にいうとみしま聖苑は洋風、伊豆聖苑は和風。わたしの考えとしては、どちらかという山にマッチした和風のほうが良いと思う。

(委員) みしま聖苑で式場を見たが、120 名と 80 名のあのスペースを見たら、今の場所に作るのは、かなりスペースを使うので無理だと感じた。

両方とも動線が、片方に固まってしまうので、他の会葬者とかちあってしまう。昨年、北信斎場たびだちの森へ視察にいったが、あれだと両方にわかれているので、そちらのほうがよいと感じた。

(委員) わたしも外の空間が大事だと感じた。中の方は、みしま聖苑と伊豆聖苑だと、極端に豪勢とコンパクトなものを見た感じがする。コンパクトで進めるべきだと思うが、みしま聖苑でみた収骨室が石で囲まれて雰囲気的にはしっかりしていると思う。収骨室だけは、あのようないいものがほしいなと思った。

(委員) 伊豆聖苑のほうで気づいたのだが、こちらで質問したなかに「配慮した点」があったが、答えとして「特にありません」ということだった。どうせ作るのなら、先ほどからアプローチ、景観といった意見が出ているが、ここだと富士山がかなり見える空間になる。そういったなかで、胸を張って「こういったもの」といえるものを望む。

(委員) 今日見たものは、豪華すぎてもうちょっとシンプルなものの方がいいと思う。収骨室もタイルだと少し冷たい印象があるので、もう少し温かみのある施設にしてほしい。

(オブザーバー) みしま聖苑と伊豆聖苑では、式場があるなしで大きく変わってくると感じた。みしま聖苑のような式場が2つあると規模的にも大きくなるし、お金もかかると感じた。伊豆聖苑は待合室、廊下、トイレなどちょっと狭い感じがする。  
みしま聖苑を見るなかで、伊豆の国市でも必要なのだろうかと思った。きついなと思う。

(オブザーバー) 伊豆聖苑は、非常にコンパクトであったが、収骨室等狭いと感じた。収骨室と収骨ホールの動線の関係で、人目のある廊下を通らなければならない。  
みしま聖苑のほうは、動線のほうは重ならないように工夫はされているが、ロビーや和室が端に偏ってしまっていて歩く距離が非常に長い。炉前ホールをガラスで区切っているのは安全上いいと思うが、見送りホールが、過去の経験からも、ガラスの前に人だかりになってしまって、見送りが十分できない。

(副委員長) どちらの斎場も何度かお邪魔しているが、改めて見ると、明るいと感じる。これは絶対必要と感じた。暗いイメージが多かった斎場であって、20年前みしま聖苑は新しい感覚で作ったと感じた。  
式場の問題だが、ホールの貸し出しだけならかえって必要性は感じないように思う。

(委員長) それぞれ工夫がされているし、時代にマッチしたものだった。特にみしま聖苑は、三島市、函南町の共同運営ということで、税金ということ意識して、収支を見ながら運営しているということで、しっかりしていると感じた。

議題(1)は確認したということで終了する。

(2) 新火葬場基本計画検討委員会での検討内容について

(委員長) 議題(2)の説明を事務局お願いする。

(事務局) 資料3 議題(2)について説明。

(委員長) 質問等あるか。

(質問等なし)

それでは、このような内容で検討を進めることで了解されたものとする。

### (3) 新火葬場基本計画(案)の検討について

#### 1) 基本方針について

(委員長) それでは、議題(3)については、1)～3)がある。とくに3)については一つずつ了承をとって進めたいと思うので、よろしくお願ひします。

(事務局) 資料4 議題(3)「1)基本方針について」説明  
内容の確認を依頼

(委員長) わたしも候補地選定会議に出ていたが、候補地選定会議でも、これら基本方針に則して候補地選定を行った。

質問等あるか。

(質問等なし)

とくに質問ないので、本委員会として確認したということで、次の議題に移る。

#### 2) 平面計画「ユニット化」について

(委員長) 次の2)平面計画「ユニット化」について、説明をお願いする。

(事務局) 資料4 「2)平面計画「ユニット化」について」説明

(委員長) 各委員の質問、意見をお願いします。

(委員) ユニット化については、こうしたメリットについて賛成であるが、疑問点がある。「運営しながらユニットごとに改修を行うことが可能」と

あるが、火葬炉が3基あって2基と1基に分かれている。炉を改修する場合、1つの方は、まったく使えなくなるのではないか。

そういった意味で、2対1でいいのか。考え方を聞かせていただきたい。

(事務局) 2炉の方が1炉使えない場合は、基本的に問題なく利用可能と考えられる。1炉側が使えない場合でも、2炉側の炉だけを使い、場合によっては、1炉側のユニットの待合室を使っただけ。火葬炉としては1列に炉が並んでいるよりも、はるかにメンテナンスがしやすい。

また、みしま聖苑の待合室が改修されていたが、1列に並んだ状態であるので、かなり大変だったと思う。そういう問題も発生しづらい形態と考えている。

(委員) 1炉の方が使えないときの運営方法が考えられるかということを知りたい。

(事務局) 2炉の方の炉を使ってもらって、待合室は1炉のユニットを使ってもらおうということが可能と考える。

(委員) 本来であれば、4基あれば運用面で余裕ができるが、コスト面に跳ね返る。件数でいうと4基まで必要ない。運用面でのリスクを回避したいのであれば2基ずつということも考えられるが。

(委員) 4基にしたときのコストを教えてください。

(事務局) 火葬炉と排ガス処理設備1台、概算で5千万円くらい。

(委員) 伊豆聖苑、みしま聖苑ともに2炉で1つの排ガス処理だったと思うがそのあたりは。

(事務局) その通りである。5千万というのは、超概算である。ただし、2炉1系列とした場合でも、機械は2基分のボリュームをもったものとなり、1炉1系列としても、やはりそれほど変わらないと思われる。

(委員) 機械が増えると、建築面積が増えるので、建築コストも増えることになる。

(オブザーバー) 告別・見送りの部屋だが、みしま聖苑は、台車が危険だから分けたと  
いていたが、計画だと告別見送りの部屋で係の人が台車を動かすとい  
うことでよいか。安全面はどうか。

また、炉の増設を前倒して行うということだったが、炉が高温で壊れ  
やすいということから、安全面という話だったが、今の3基で大丈夫か。

(事務局) まず、炉前の考え方が、十分な広さをとることで、危険性は低くす  
ることができる。他の施設をみても、みしま聖苑の形式のものはほとん  
どない。会葬者数の想定から十分な広さを確保すれば、問題ないと思  
える。

炉数についてだが、みしま聖苑が炉数を増やすということの根底にあ  
るのは、1炉が1日に対応しなければならない件数を、分散させて減ら  
すことで、故障のリスクを減らすということ。伊豆の国市の場合だと、  
3炉1日最大7件であり、フル回転させるようなことはないので、故障  
リスクは低くなると考えられる。

(委員長) 今、何回も炉を使うと故障リスクが高まるという話があったが、炉  
のメーカーを選定する段階で、耐火材の話がある。わたしは長年溶解炉  
を作っていたわけだが、耐火材の対高温性ということで、温度の急激な  
上下の変化に強い耐火材を使うように、メーカーから話を聞きながら、  
選定してもらえばよい。最近はセラミックファイバーが使われるよう  
になってきている。そのあたりは事務局にお願いして、炉の業者の選定  
のときに対応してもらえばよいかと思う。

(委員) みしま聖苑の件だが、2基1系列で現状4基で、もし2基が耐火物の  
補修となった場合、4基あるうちの2基がつかえなくなると、件数も多  
いので、予備的なものがないと回していけないのではないか。

伊豆の国市でも、大規模補修を考えた場合に1炉1系列にした方がよ  
り改修がしやすいかもしれない。

(委員長) 他に質問等は。

(質問なし)

他に質問等ないということで、「ユニット化」の件は承認されたとい  
うことで次の議題に進みます。

3) 諸室の計画について

①車寄せ・玄関部分

(委員長) 3) 諸室の計画について、事務局説明をお願いします。

(事務局) 3) 諸室の計画について「①車寄せ・玄関部分」について説明。

(委員) 諸室の計画のなかで、式場の有無が大きく面積にも影響してくるので、先に検討してはどうか。

貸しホールみたいなら私もいらないと思う。私も、祭壇を業者が持ってくるということは、この間知ったばかりであり、多くの市民も知らないことだと思う。常設してあれば安く上がっていいということになるが、それを知らないの、式場を作ってほしいということになると思う。

(委員長) 11 ページに「多目的室」というところがあるので、そこで検討したいがどうか。

(事務局) 我々も式場の有無が大きな問題であることは認識しているが、ここでは、基本計画(案)に掲載された順に一つずつ決めていく形式としたい。ご理解いただきたい。

(委員) 場所柄、風が強い。私の記憶では、夏は東風、冬は西風が強いイメージ。東風はなんとなくいいが、西風は、風雨のときは影響がある。庇だけでなく、トンネルのような感じもいい。気象を調べてみないとわからないところもあるが、検討してもらいたい。

(事務局) 検討させていただく。現在、生活環境影響調査ということで、気象の調査も行う予定でいる。そのあたりでも検討させていただく。

(委員) やはり駐車場でも屋根があったほうがよいのと同じで、アプローチするのに、気象に左右されないで、心静かに、お棺が中に入っていき方がよいのではないか。

(委員) 基本的に、マイクロバスと霊柩車が入るのに問題がないように考えているが、長岡斎場も乗用車の利用が増えている。駐車場をかなり広くと



るとなると、車寄せをどう作るかということは、外観のデザインもあり難しい。建築設計者はプロポーザルで決めていくことになると思うが、評価の基準にもなるかと思う。

(委員) 建築家にはなるべく難しく言ったほうがいい。素人レベルでは解決が難しいことを考えることでお金をもらっているのです。

(委員) 天候の問題だが、私は建設地の上の方に住んでいるが、時期、時間によっては、霧がすごくなる。駐車場入り口、車寄せ等照明をつけるなど、霧に対する対応も考えてほしい。

(委員) 今日見た伊豆聖苑は、風除室がない施設だったが、ここは風除室があったほうがよい場所ということか。そうであれば、車寄せプラス風除室としたほうがよいかということに関係するのでは。

(事務局) 基本計画(案)では、風除室を設けているが、必須かどうかも踏まえて検討させていただく。

今日頂いた意見は、第3回までに意見を集約したものを用意させていただいて、確認していただく予定である。

(委員) 伊豆聖苑は機械室(バグフィルター)が2階にあったが、本計画でも2階か。

(事務局) 地階である。

(委員) 今1階に計画されている部屋でも部屋によっては地階にもっていくこともできるということか。

(事務局) その通りである。一般的には、よほど大きな施設でない限り、平屋が多い。ユニバーサルデザインの観点からも、会葬者の階の上下はできれば避けたい。ただし、計画の作り方次第では、機械室以外の地階の利用方法というの也被えられる。

(委員) みしま聖苑の時代の場合で考えると、施設を建てる敷地を造成して作っている。よって、造成費が建築費と同じくらいになってしまっている。最近の傾向としては、敷地をどう活かすかということがある。先程の北

信斎場の場合でも敷地に高低差があるので、それを活かして機械室を地下に持っていった。そうすることによって、メンテナンスルートが地下レベルになり、外の景観が見えるようになった。

今回の計画では、傾斜地で、外の景観が見えるということで、北信斎場を参考にしている。

(事務局) 資料2 北信斎場の資料をもとに補足する。6頁上の左下の写真が裏からみた様子である。機械室（バグフィルター等）を地下に配置する、このような形をイメージしている。

(委員) 非常口がないが、非常口はどうか。伊豆聖苑では、非常口に喫煙所があり、そうなると屋根の問題がでてくるのではないか。

(委員長) かなり意見出てきたので、事務局で今後検討をしてもらうことで、委員会としては了承したということによろしいか。

(異議なし)

①についてはこのような形で進めていただきたい。

②告別・見送り・炉前・収骨スペース

(委員長) 続いて②告別・見送り・炉前・収骨スペースに事務局より説明をお願いします。

(事務局) ②告別・見送り・炉前・収骨スペースについて説明

(オブザーバー) ユニット化が一つの肝だと思うが、みしま聖苑では、一つ一つが区切られていた。別れが、段階的に区切られているという風に考えられる。ある意味必然があつて分かれてきたと思うが、これだと全部一体なので、焼いているところで食事したりすることについて、区切りがないということについてどうだろうか。わからないが、区切りには意味があるようにも思う。全部見えればよいというわけでもない。

(事務局) 写真が紛らわしくて申し訳ありません。待合室は基本的にドアで区切られている。

炉前でお別れをしたあと、待合室またはロビーで待っていただき、また炉前に移動して収骨していただくという流れである。

例にある三次市は、遺族の心情に配慮して、より一体的な使い方ができるような計画となっている。

(委員) 三次市の写真について補足する。通常は炉前と待合室は壁で仕切られている。ただし、例えば、若い人などがどうしても離れたくない等の時には、壁を開けて寄り添えるようにしてある。運用によって使い方を変えている。

(委員) シンプルにするということからすれば、火葬場に絶対必要なものは何かと考えた時に、火葬炉だけである。神社でも、もとは神様の社があって、拝殿はなかった。それが便利だからといった理由で部屋が付け足されていった。そして、時代が複雑になってきて、部屋を分けていくということになった。

だから、火葬場は、機能に一つのスペースを与えて分けていって複雑にしていったのが今であるということ。それをもう一度本来の見送る場所を作るということはこの場でやるとすれば、告別・見送り・炉前・収骨スペースを一番充実させ、なるべく広くとって、それが見えてくるように設計すれば、本当に他にはない火葬場になると思う。

日本の昔からの庭と同じである。なにもないところを庭という。何もないから何にも使える。ここのスペースを時間で使い分けていく。同時にやるわけではない。②告別・見送り・炉前・収骨スペースの部分が最もメインの所になって、住民の考え方が最も出るところではないか。

食事するところは別に区切られている。本来はなくてもよいところ。

(委員) 動線が複雑になると、1人残されるとどこに行っているかわからなくなる。東京の桐ヶ谷にいったときに、東京の斎場は、本当にシンプルで、待合室はあるにしても、お骨を拾うのも炉の前で拾うという感じだった。炉前にいたければいて、シンプルな方がいいと思う。

(委員) 先程のなぜ、部屋が分かれていったかという、もともと炉前ホールしかなかったが、火葬が増えていくと、炉前が混雑する。かたや見送りしてかたや収骨してと。どんどん会葬者が輻輳して、会葬者によくないということで、部屋をどんどん分けていった。

それで炉前ホールを分けて、火葬炉を占有できるような形にしましょうというのが今の形。

部屋が多くなってくるとわかりにくくて大変だということがで

る。みしま聖苑のような形だと、動線が複雑になって、案内誘導が大変になっていく。

(委員) 部屋を多くすると、廊下が多くなる。部屋を分けていくと使わない部分にどんどん面積をとられることになる。

(委員長) ②告別・見送り・炉前・収骨スペースについては、「広くとる」「シンプルに」という意見があったので、まとめる際にはよろしくおねがいます。②については了承ということによろしいか。

(異議なし)

### ③待合室・待合ロビー

(委員長) 続いて③待合室・待合ロビーについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ③待合室・待合ロビーについて説明

(委員) 今、長岡斎場の待合室では、イスと畳が6：4くらい。畳のスペースがほんの少しでもいいので、あるといいと思う。赤ちゃん連れなどにいいのでは。

(委員長) ③待合室・待合ロビーについては、了承ということによろしいか。

(異議なし)

### ④キッズコーナー・授乳室

(委員長) 続いて④キッズコーナー・授乳室について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ④キッズコーナー・授乳室について説明

(委員) 計画だと、1カ所のようなのだがよいか。

(事務局) 1カ所の計画である。平面計画上では、片方のユニットによった形に

見えるので、場合によってはもっとセンターにもってくることも考える。いずれにしても、施設に対して、1カ所あればよいと考えられる。

(委員長) 特に授乳室は、1室でもよいが、カーテンなどで2つに区切るようにすると、使いやすくなるかもしれない。

それでは、④キッズコーナー・授乳室については、了承ということでよろしいか。

(異議なし)

#### ⑤霊安室

(委員長) 続いて⑤霊安室について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ⑤霊安室について説明

(委員) 霊安室は24時間使用可能ということでよいか。

(事務局) 運用についてはまだわからないが、伊豆聖苑では、時間外に利用が発生する場合、市の職員がでて対応するようなことをおっしゃっていた。受入の仕方はこれから決めるが、24時間使用することは可能。

(委員) 霊安室の出入りが、伊豆聖苑では、裏口から入ってくるような計画になっていた。こちらもそうするのか。図面をみると出入口がないように見えるがどうか。

(事務局) 図面上はそこまで計画できていないが、実際は、出入口を計画するほうが望ましいと感じる。目立たないように出入りをさせる。

(委員長) それでは、⑤霊安室については、了承ということでよろしいか。

(異議なし)

(休憩10分間)

⑥ペット炉及びお別れ室

(委員長) 続いて⑥ペット炉及びお別れ室について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ⑥ペット炉及びお別れ室について説明。  
火葬炉3基とペット炉1基について再度説明、了承依頼。

(委員長) まず、火葬炉3基、ペット炉1基という点について、意見、質問をいただきたい。

(意見、質問なし)

それでは、本委員会では、火葬炉3基、ペット炉1基ということをした。

続いて、お別れ室について。

(事務局) ペット炉及びお別れ室について補足説明。  
平面上お別れ室等の記載がないが、想定は地下部分であること、お別れ室以外、慰霊塔の必要性等関連事項もあればあわせて意見をいただきたい旨を説明。

(委員) みしま聖苑のペット炉を視察して驚いたことが2つあった。1つは、1日3件程度の需要があること。そんなに多いかとびっくりした。2つ目は、年間1,000件前後で、そのうち管内が6割、管外が4割ということ。このことから考えて、ペット炉はぜひ作ってもらいたいし、それなりのものをお願いしたい。それなりというのは、みしま聖苑の出入口は残念ながら荷受室の扉のようだった。資料の写真のような、規模とかコストの問題はあるが、最低限のものは作ってもらいたい。

(委員) ペット炉の受付をしてから、地下の入口に回ると手間であるがどうか。

(事務局) 運営の部分は詰まっていないのだが、インターホンをペット火葬入口に設置し、呼び出しがあったら係の者がいくということで充分かと考えている。

(委員) みしま聖苑の場合だと、受付で書類を書いて、お金を払ってということがあるが、そのあたりはどうするか。

- (事務局) 事務所に一度よって手続きをしてからペット火葬入口に回るのでは手間がかかるので、できるだけ1カ所で完結するようにしたい。
- (委員) 焼くのはみしま聖苑のように合同で行うのか。
- (事務局) 今考えているのは、そういう形態である。市内に民間の業者がないとはいえ、周囲には民間業者があるので、合同で了承いただける方のみ受け付けることを考えている。
- (委員) その場合、ちょっとした供養塔みたいなものがあれば、たまには花を持っていこうということもあると思う。火葬場が暗いイメージではなく、みんなが来るようになれば明るくなるのではないかとおもうので、作ったらいと思う。
- (委員長) わたしは、造らない方がいいと思う。造ると物理的にいっぱいになってしまうとどうするかという問題がある。
- (委員) いわれているのは、そういうことに関係なく、そこにいなくても、手を合わせる所があればいいのではないかと。  
スウェーデンの例だって、手を合わせる場所があるだけである。もしそういうものをつくられるのであれば、骨とは関係なく、「しるし」があるということ。心の問題だと思う。
- (事務局) 委員のおっしゃるように、明るくなるということはあるかとは思いますが、骨を無尽蔵に収めることは難しいと思うが、慰霊塔については検討したい。
- (委員) 他の施設で、水子供養等の供養塔を建てたら、いろいろな供物が集まるようになり、動物、カラスが集まってくるようになって管理が大変だということがあった。作るうえでは管理運営することも考えていったほうがよい。
- (委員) 新火葬場をつくったら、パンフレットは作るのか。作るのであれば、パンフレットにそういうものはもってこないで、手だけ合わせてもらうということで一文いれたらどうか。

(事務局) 富士山が見えるというロケーションで、ペットの飼い主にとってもいいのではないかと想像する。考えさせていただく。

(委員) 名所になるかもしれない。

(オブザーバー) ペットが今家族と同じと考えられている。お寺でも、お墓と一緒に入れているですかと聞かれることがある。お寺によって考え方は違うが、家族と同じだから入れてもいいというお寺も結構多い。わたしのところの本山もペットの墓石を別に作っていても構わないとしている。そうすると、骨をかえしてもらいたいというニーズが出てくるのではないかと。まとめてだけでいいのかという感じがする。

(委員) そういう人は、民間へ行ったらいいと思う。市のところはあくまで合同でということ。

(委員) おとし、2匹いるうちの1匹が亡くなった。その時どうしたかというところ、伊豆市にドッグランがあり、そこの横に民間の火葬場がある。そこでは、集めておいて、慰霊塔に入れるという方法と、骨をもって帰るという方法がある。わたしは、人間と同じように白い瀬戸物の容器に入れて何日かおいて、家の庭に埋めた。他の犬や猫もいつも一緒に入れるようにということで。そういうメンタルの人もいるということも考慮していただくとありがたいと思う。みしま聖苑では、まとめて処分するという方法もあると初めて知ってびっくりした。

動物に優しいところというのは、人間にも優しいということになり、伊豆の国市が優しいまち、地域なんだという PR にもつながるのでないか。できたら、最大公約数で、いいものを作りあげたら誰にも優しい、生き物に優しい施設になると思う。

(委員長) 委員会としては、作ることはいい。あとは、運用面であると思う。当然、まとめてやるのと1匹ずつではコストが違ってくる。委員会としては、作るのはいい。運営方法は任せるしかないと思う。

(委員) ペット炉の運営だが、やはり行政がやることなので、民業圧迫しないように配慮して合同で火葬するということもあれば、あまりにも要望が多いので1体ずつ火葬するところもあるし、両方選べるということもある。そこを行政サービスとしてどこまでやるか。



みしま聖苑にしても、税金で運営しているということがある。一般の火葬は行政にしかやれないが、動物は民間でもやれる。その部分の調整をどうするか。委員会で結論を出すのは難しいと思う。市の中でも判断は難しい。委員会の中では、市の判断の参考になるような意見を出してもらえばいいのではないか。

(委員長) 運用の方はまた検討していただくということで、委員会ではペット炉をつくるということで了承するというごことをお願いします。

#### ⑦多目的室

(委員長) 続いて⑦多目的室について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ⑦多目的室について説明。

(委員) わたしは、小さくてもいいから式場を作ってもらいたい。道から火葬場が見えるのがいやだという意見があったが、式場を作って、通夜をやれば電気もつくようになるし、駐車場も使うのであれば、電気をつけるだろうし、通る時も明るい。小さくてもいいから、2つは家族葬みたいなものでいいから、作ってもらいたい。民間は大きい建物で1件やるので、大きすぎて、5、6人ではとてもやれないと思う。火葬場に併設すれば、そこで済んでしまうし、お年寄りになれば、あちこちに移動するよりもいいと思う。祭壇は民間葬祭業者に依頼してもらってこなければならぬのははじめから決まっていることだし。会場だけの提供であっても作ってもらいたい。

基本計画(案)のアンケート結果にも式場を作ってほしいという意見が多くある。

(委員) 先程も言ったが、祭壇を運び込まなければならないということを知らない人が多いと思う。僕も4日前まで知らなかった。ただの箱貸だと。あそこに祭壇はあるものだと思っている人がほとんどで、部屋の仕切りの向こうから移動させてきているだけだと思っている人が多い。そこにあれば安く上がる、便利だという人が多いと思う。市民には、「祭壇はない」ということを伝えれば、必要ないと思う人も増えると思う。

(委員) みしま聖苑みてもわかるが、式場だけではない。控室、僧侶控室、か

なりの付帯的な部屋がある。平面でいうと、ちょっと無理だと思う。地区の人に聞いたが、市内にも葬祭場はかなりあるし、必要ないのではないかと思う。ほかの部屋の面積が減らされてしまうのではないかと思う。小さい部屋をつくっても、ごく一部の人が使うだけで、このあたりでは、まだあと10年くらいは人が集まると思う。だからと言って大きい部屋を作っても、将来的に機能しなくなる可能性がある。

(委員) 今回のみしま聖苑を見た時に、私もあれでは大きすぎて無理ではないかと思った。ただ多目的室で家族葬に対応するという事は納得すると思う。

家族葬という一般的な風習としては、通夜をやって告別式をやってということがあるのか。そのあたりがよくわからない。家族葬というとなんとなく告別式をやれば良いと思っていたが。

(委員長) 私の経験から話をすると、葬祭場でやるということでは聞いたが、聞いていた時間になっても始まらない。来た仲間と話をしているうちに、30分経ったらこれでお通夜を終わりにしますと、解散になった。そういう葬儀もあった。ただ昔の仲間がワイワイガヤガヤしているだけで、お坊さんもこなかった。

(委員) そういう程度のものが家族葬だと思う。通夜もやったら普通のものとかわからない。家族葬のイメージがまだよくわからない。こういった葬儀ができるというものの定義を決めて、多目的室の目的をはっきりしたほうが良い。通夜はやらない、昼間ちょっとやるくらいで、ちょっとしたお茶くらいしかでないというくらいのものであればあった方が良くないか。

(委員) 一般的に一番小さい家族葬、いわゆる直送というやつで、通夜も告別式も行わない、本当に数人だけが火葬に付き合うだけという形式が増えているのも事実。そういったこともふまえて検討するべきだと思う。今後はもっと多様化していくと思う。今の形式は、今後はどんどん崩れていって、言い方変えれば自由葬といったものになると思う。

(副委員長) これからの葬儀はいろいろと形が変わってくる、いろんなやり方がでてくる。本当の家族の個人密葬から、大きなものまでいろいろあると思うが、決して、葬祭会館の肩を持つわけではないが、それはそれで利用

するという事。今日のみしま聖苑の会場をみていると、ほぼ経費的にはわからないのではないか。余分にかかるものとしては、往復のバス代。一般の葬祭場の会場代は、そんなに高いものでもないのでは。民間のものは全部まとめていくらという形のなかで決まるわけだが。すべてのものが整っているのがベストだが、維持管理等経費を考えると、ベストじゃなくてベターでいいのでは。

(委員) 「家族葬」の定義だが、まず「家族」の定義がはっきりしない。同居している人が家族なのか、地域によっては、親戚まで含めて家族葬という場合もある。あいまいのなかで、「家族葬」という言葉だけ定着しているのが現状。

先程の直送対応というのが最近非常に多い。火葬場に集合して、場合によっては読経があって焼香するというケースもあるが、葬儀、通夜ということをやらずに、火葬場にみなさん来てもらって、簡単にお別れをするというケースが増えている。そうなったときに、ユニット化されているということがあるので、時間内でお花入れや読経といった自由な使い方ができる。ある程度、現在の多様化している葬儀に対応できる。多目的室ということだと、資料の佐久平斎場だと、直送した後場合によって初七日法要をやるというケースもある。

あくまで一般的な葬儀は民間式場で対応できる。先程あったように、1つの空間をどう使うかという、運営の中で自由度を持たせる方が、いろいろなパターンに対応できる。

(委員) 現代人は、部屋に機能の名前を付ける。昔はそうではなかった。台所とか寝室とって、やることを名前として、あたかもそういう空間かと思うが、これだって待合室と書いてあるから待合室だが、机を並べかえれば、式場になる。そういう風に作っておけば、基本方針④「新たなニーズに対応できる施設づくり」ということで、結局なにもない部屋。待合室の中に給湯室が入り込んできて、形をいびつにしないような作り方をすればいい様な気がする。全部庭的に作っていけば、全部多目的。焼くところさえあれば、使い勝手は同じ。そうすれば、将来、待合室を式場に使えば使ってもいい。

(オブザーバー) どこまでが家族葬かということだが、わたしは市の職員で戸籍の担当をしていて、死亡届を受けたりした。病院で亡くなって、家族は遠方であって、遺体はそのまま運ぶことができないという場合には、火葬場で

骨にしてから運ぶということがあった。そういうときには、多目的室の需要があるのではないかと考える。病院から引き取って、火葬してそれだけではということで、少し式のようなものをやるという。そのあと、地元においてどういうことをやるかはわからないが、そういう目的での部屋はいいのでは。

(オブザーバー) 家族葬というのが新しい言葉で、明確な姿がない。たまたま檀家の集まりがあったので聞いてみたが、「そこで通夜、告別ができる部屋がある方がいい」という声はあった。「30～40人くらいは入れる部屋があるといい」といつていた。45㎡だと、祭壇をちょっと入れて、いすを並べると、そこまで入らないと思う。どこまで求めるかというのはあるが、もう少し大きくてもよいかと思う。

(委員) わたしもそう思ったが、委員のおっしゃったとおり、待合室を多目的室に使ってもいい。  
ただ、遺体をそこまで持っていかとか夜も使えるかとかというところがある。

(オブザーバー) 夜も使うとなると、シャワー室や寝る部屋も必要で大変なことになる。その辺の問題。

(委員) ですから、こういうことはできるという定義が必要な気がする。自由に使っていていいといたって限界がある。

(オブザーバー) 通夜でも8時半までといった形で時間を区切るなど。

(委員) 定義を決めれば、規模が決まると思う。

(委員) キッチンとか配管がいっぱいくるようなものは、いろいろ使いたいところに出っ張ってくるなという方向性を設計する人に出せば。  
今は待合室としては機能するが、自由に使いたいとしたら、邪魔になる。可変できない、トイレや水回りの位置をよく考えて、どう考えるかといったら基本方針④「新たなニーズに対応できる施設」になるように水回りをしっかり考えなさいということではないか。

(委員長) いろいろな意見が出て、まとめるのはなかなか難しいが、事務局に今

日出たいろいろな意見をまとめてもらい、最終的な委員会の方向性を出していきたい。

本日の議事としては、これで終了する。

#### 4. その他

(1) 第2回新火葬場基本計画検討委員会について

平成29年5月2日(火) 9時15分から 蕪山時代劇場映像ホールにて開催

(2) 第3回新火葬場基本計画検討委員会について

平成29年5月31日(水) 13:00から 蕪山時代劇場映像ホールにて開催

#### 5. 閉会

以上